

「堺市立中学校連合読書会の取り組み」

提案 堺市中学校教育研究会学校図書館部会
堺市立中百舌鳥中学校 前田 亮

「堺市中学校連合読書会について」

「堺市中学校連合読書会」の歴史は古く、今年度で59回目の開催である。「堺市中学校連合読書会」は、堺市立中学校の代表が一堂に会し、8つの班(ブロック)ごとに分かれて、同じ作品について感想や意見を述べ合うものである。

開催時期と開催場所について

堺市には市立中学校が43校あるが、この読書会には全中学校が参加している。全校が参加できるように開催時期は夏休みとしている。今年度は堺市立陵西中学校で開催した。

テキスト選びについての悩み

「堺市中学校連合読書会」は堺市中学校図書館部会の運営委員が中心となり、準備・運営をしているが、一番の課題(悩み)は、テキスト選びである。単に読書するだけでなく、読書会をするテキストとなると選ぶのに苦労がある。

1. 読書会で出会う自分と同じ意見にほっとしたり、違う意見にこんな読み方があったのかと気づきがあるか。
2. 自分一人の読みでは思いつかないことが他の人から出されるか。

【過去の「連合読書会」テキスト】

令和元年度...「繁栄の花」 星新一

平成30年度...「車掌の本分」 かんべむさし

平成29年度...「最後の一枚の葉」 オー・ヘンリー

平成28年度...「恩讐の彼方に」 菊池寛

平成27年度...「いちご同盟」 三田誠広

平成26年度...「沈黙」 村上春樹

平成25年度...「素顔同盟」 すやまたけし

平成24年度...「黄色い目の魚」 佐藤多佳子

平成23年度...「晩夏のプレイボール」 あさのあつこ

平成22年度...「練習球」 あさのあつこ

令和元年度の「堺市中学校連合読書会」

第59回堺市中学校連合読書会について

日 時 令和元年7月24日(水)

場 所 堺市立陵西中学校

テキスト 星 新一 『繁栄の花』

ブロック数は8つ。第1ブロックから第8ブロック。

1ブロック5、6校 約20名での話し合い。

各係(当日のくじで、決定。)

進行係 (読書会の口火を切り、話し合いを進める係・板書を併用しても可)

記録係 (読書会の大まかな流れなどを記録する係)

記録係のうち3校は最後の全体会で、話し合ったことなどの発表。

各係の役割

進行係

- ・まず、自己紹介、作品についての一言感想などを言ってもらおう。
- ・意見交換をできるだけ活発に行い、無理に主題についてまとめていく必要はない。
- ・所定の時間が経過したら、感想文の用紙を配布する。

各係の役割

記録係

- 話し合いの内容を、記録用の用紙にまとめる。
- くじで発表校になった学校の代表者は、3分程度で主だった意見、注目された意見等を発表する。

当日の日程

| 時 間 | 内 容 |
|--------------|---|
| 9:00 ~ 9:15 | 開会の言葉 教育委員会挨拶 日程の説明（各教室へ移動） |
| 9:25 ~10:00 | 各教室での話し合い（従来どおりの意見交換）（35分間） |
| 10:10 ~10:45 | （10分休憩）ディベート形式の意見交換（35分間） |
| 10:50 ~11:10 | 読書会の感想を書く 発表校は報告の準備 （多目的室へ移動） |
| 11:20 ~11:50 | 発表校の報告（3分程度で、話し合いの内容を報告） 堺市立中央図書館長講評 図書館部会部長挨拶 閉会の言葉 |

連合読書会 話し合いの柱

『繁栄の花』 星新一 著

第一部（九時二十五分～十時）

① 作品について話し合いに入る前に、自己紹介をしましょう。
学校名・氏名・所属クラブ・趣味など、緊張をやわらげること
を目的になごやかに。

② 登場人物について交流しましょう。

ア、メール星人と地球人は、それぞれどのような人物として描かれていますか。比較してみましょう。

イ、地球人の間違いはどこからでしょう。具体的な場面を挙げて、自分の考えを話し合ってください。

③ 「繁栄の花」はどんな意味で名づけられたのですか。読み取った内容を話しましょう。

連合読書会 話し合いの柱

『繁栄の花』 星新一 著

第二部（十時十分～十時四十五分）

※ デイベート形式で二つの意見に分かれてデイベートをしましょう。

メール星人と地球人ではどちらがより重い罪だと思いますか。

ア メール星人 それとも イ 地球人

ア 「メール星人」だと思う場合は、なぜそう思うのか・どこからそう思うのか。

イ 「地球人」だと思う場合は、なぜそう思うのか・どこからそう思うのか。

☆ 時間があれば次の内容についてもぜひ話し合ってみてください。

- ・どうすればメール星人とうまく交流できたと思うか。
- ・今後、地球はどうしていけばよいか。具体的に考えなさい。
- ・この作品でどんな教訓を得たか。また、その教訓を日常生活にどのようにいかしたいか。

『繁栄の花』あらすじ

メール星人との貿易をすることになった地球人はメール星人が「繁栄の花」と名付けた花のサンプルを相手の承諾もなく勝手に増やす。「相手は軍備のない国、怖がることはない。」とどんどん増やす。やがてこの花がどんなことをしても枯れない花だということがわかる。地球人が気づいた時には手遅れ。繁栄の花は世界中で増えすぎてしまった。この花を枯らすことができるのは「メール星にいるハチ」だけ。そのハチを定期的に地球に輸出する貿易協定に調印することになる。メール星人は地球人が勝手に増やすことのできないよう生殖能力のないハチを輸出し、その代価として地球の貴重な資源や、製品をロケットに積んで帰る。

メール星人は帰る時に必ず「わたしたちが"繁栄の花"と名付けた意味がおわかりでしょう」と言い残していくのである。

板書の例

進行係のみなさんへ

- ・カードを用意しました。黒板に張って、活用してください。
 - ・黒板の書き方の例を作りました。この形式にこだわる必要はありません。参考にしてください。
- 板書の例

〈第一部〉

登場人物について

メール星人

地球人

- ・
- ・
- ・

地球人の間違い

「繁栄の花」の意味

〈第二部〉

メール星人と地球人ではどちらがより重い罪だと思いますか。

メール星人

地球人

どうすればメール星人とうまく交流できたと思うか。

今後、地球はどうしていけばよいか。具体的に考えなさい。

第一部

登場人物について交流しましょう。

- ② ア、 メール星人と地球人は、それぞれどのような人物として描かれていますか。 比較してみましょう。

地球人について

- ・目先のことしか考えていない・わがまま・欲深い・自己中心的な考え方・自分勝手
→勝手に花を増やし、悪いことばかり行ったから。
- ・地球人は自分勝手、自己中心的、欲深い人物として描かれている。
- ・目先のことしか考えていない・わがまま・欲深い・自己中心的な考え方・自分勝手
→勝手に花を増やし、悪いことばかり行ったから。
- ・自分の力を過信している。→軽率な行動。
- ・何かあったら武力で解決。→悪知恵が働く。
- ・メール星人を見下している。

メール星人について

- ・メール星人はいつも冷静で、計算高い。商売上手で頭がいい。先のことを見越している人物として描かれている。
- ・ずるがしこい・武力を使わない・何よりも利益を優先・賢い頭と花を武器に戦う人
 - 地球人が勝手に花を増やすことを予想し、自分たちがもうけられるように仕向けたから。
- ・地球人より何枚も上手。

用意周到

第一部

②イ、地球人の間違いはどこからでしょう。具体的な場面を挙げて、自分の考えを話し合ってください。

イ、地球人の間違いはどこからでしょう。具体的な場면을挙げて、自分の考えを話し合ってください。

- ・メール星には軍備がないからと安心して、地球人が花を勝手に増やしたときから。
- ・メール星を見下して、利益のためだけに、説明を聞かずに地球人が「繁栄の花」を育てたときから。
- ・人の注意を受け入れようとしないところから
- ・**武力で抑えようという考え方をしたところから**
- ・メール星人の許可を得ずに花を増やしたところから
- ・メール星人を甘く見くびってしまったところ・花を増やしてしまったこと・メール星人たちのことを知ろうとせず、自分たちの良いように物事を進めてしまったこと・仲間の忠告を無視したところ・メール星人は武力では向かってこないだろうと安心してしまったところ。
- ・地球人が、メール星を平和に満ちた国と思ったとき→相手をよく知らずに話すのはよくない。
- ・**初めから上から目線だった。武力をもとに上から見下していた。**

③ 「繁栄の花」はどんな意味で名づけられたのですか。読み取った内容を話しましょう。

- ・花が地球の養分を吸って繁栄するように、メール星人も地球の資源を吸収して繁栄するから。
- ・花が繁栄し地球が繁栄すると勘違いさせるメール星人の策略で、最終的に繁栄するのはメール星人。そういったことで「繁栄の花」と名付けた。
- ・どんなことをしても枯れず、繁栄し続ける花だから。
- ・最初は地球人が繁栄するための花だったが、結果としてメール人が繁栄するための花であったから。
- ・花が繁栄することで、メール星も繁栄するという意味

第二部 ディベート形式

メール星人と地球人ではどちらがより重い罪だと思いますか。

ア 「メール星人」だと思える場合は、なぜそう思うのか・どこからそう思うのか。

- ・花の説明をしなかったから。
- ・平等に貿易をしようとは初めから思っていないから。
- ・相手が困ることをわかっていながら、ハチの数やロケットのスピードを調節したから。
- ・繁栄の花の説明をせずに、勝手に帰って行って不平等な貿易だから。
- ・先を見越して人の弱いところに付け込んだ。
- ・地球人に何かわからないものを渡したのが悪い。
- ・計画的に商売をしていた。

イ 「地球人」だと思える場合は、なぜそう思うのか・どこからそう思うのか。

- ・反対者もいたが流されたから。
- ・勝手に花をふやした→相手をためそうとした ずるいこと
- ・サンプルの花を勝手に増やしたから。
- ・あやまらなかったから。
- ・脅迫まがいのことをしたり、武力を使おうとしていたから。
- ・互いに企まず、正直に直接話していればよかった。
- ・相手の了解も得ずに花を増やしたところから。
- ・先のことを考えずに自分勝手な行動で増やしたのが悪い。
- ・武力がない星に力づくで行けばいいと思っているから。

イ 「地球人」だと思える場合は、なぜそう思うのか・ どこからそう思うのか。(続き)

- ・サンプルを勝手に増やして、世界中の欲しい人に渡し、お金もうけをしている。
- ・他人の物を横取りしてもかまわないと思っているから。
- ・自己中心的で戦争を起こしてもよいという考えだったから。

☆ 時間があれば次の内容についてもぜひ
話し合ってみてください。

どうすればメール星人とうまく交流できたと思うか。

- 初めから対等な立場、平等にしていく意識があればよかったのではないか。
- 上から目線をやめる。

今後、地球はどうしていけばよいか。具体的に考えなさい。

- ・ハチの平均寿命をのばす。
- ・武力に対する考え方を改める。
- ・戦力を使おうとしたことを謝る。
- ・平等な条約を結ぶ。
- ・貿易を続ける。
- ・花を衣服や香水に活用する。
- ・許してもらうまで謝る。
- ・貿易を中断する。二つの国の考えは違うから。

《まとめ・感想》

- ・最終的には、メール星人が悪いという人が19人中11人、地球人が悪いという人は19人中8人で、メール星人が悪いということになった。しかし、どちらにも悪い点があり、どちらも悪いという意見も多かった。
- ・先のことを見据え、計画的に考えながら行動したい。欲深く生きるのではなく、注意深く生きる。
SNS問題にもあるように、常に慎重に行動する。目の前だけでなく、これからを考える。
- ・損をしないように目の前のことだけではなく、先のこととも考えて行動する。
- ・相手を下に見ず、対等な関係を築くことが大切。
- ・話し合いをすることが大事。

連合読書会の感想(参加生徒)

今回の連合読書会に参加してみて思ったのは、同じ中学生でも考え方が本当に色々あるのだなということです。最後のディベートも二手に分かれて話すと、同じ物語を読んだはずなのに、視点が違うだけでこんなにも内容の違う感情になるのだということを知ることができました。ディベートでアプローチの差も、聞いていて面白かったです。「それはムリがある」と感じる主張の人もいれば、「なるほど」と思うような言い方の人もいて、楽しかったです。貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

今日、私は読書会に参加して、世の中にはいろいろな意見を持った人がいるのだと改めて実感しました。自分と違う意見やその理由を聞くことは、とても興味深かったです。新しいものの見方を知ることができました。これからは、自分の意見を言うときに反対意見のことも考えて、自分の意見を深めていきたいです。また、自分の意見を絶対的に正しいものだと思わないように気をつけたいです。

連合読書会の感想(参加生徒)

今日の連合読書会に参加して、楽しかったことは、第二部のディベートの時に、メール星人側、地球人側の人達がいろいろな方面から、ユニークな意見を出してくれていたのも、司会進行役としてもものすごく進めやすかったです。また、普段は聞けないうちの人の意見を取り込むこともできました。反省点としては、話が止まってしまった時に、つなげることができなかつたので、次の話し合いなどに今日のことを生かせれば良いと思います。

初め私は、初対面の人と議論を交わすことなどできるのだろうかと思っていました。しかし、意見を聞いていると自分では気づかなかつた見方や考え方があり、とても共感する部分や感心する部分が多くありました。私は中学生になってから人前で意見を発表することが減つてしまつていたのですが、今日、人に意見を伝え議論する楽しさを思い出しました。司会から議論まで生徒だけで行うのは初めてのことで貴重な体験となりました。この経験を活かして、積極的に意見を発信し、広い視野をもてるような人になりたいです。

連合読書会の感想(参加生徒)

今回は様々な中学校とディベートをすることができて緊張しましたが、とても楽しかったです。話し始めた時は上手く話をまとめたり手を挙げて発表したりするのが、出来ていませんでしたが、何度か発表できたので少しは話し合いに参加できたかなと思います。テーマになった「繁栄の花」は現代を表しているように思えました。お互い腹の内を見せずにコミュニケーションを取るのが特に現代の人間関係を表しているようでした。

連合読書会に来て良かったと思いました。他行の人たちの意見を聞いて面白く、考えさせられる意見だったと私は思います。そして、今回のお題であった「繁栄の花」は、今の私たちにとっての課題であると思っています。近頃SNSと言われる、インスタなどの、顔や性格が分からない相手とつながることができる時代で、私たちはどう接しないといけないのか、「繁栄の花」で知りました。

連合読書会の感想（教員・学校司書）

随分以前に教科書に掲載され、当時は新しい感覚の作品だった星新一の作品が、今の生徒たちにどう捉えられるのか、大変興味のある読書会でした。第一部は皆さん緊張しており、一通り考えてきた発表を述べる形でしたが、ディベートでは、どちらが重い罪か積極的な意見のやり取りで盛り上がり、実のある“戦い”になりました。世の中の社会情勢や人々の価値観が大きく変動している時代に、この作品の本質を若い世代がどう読み取っているのかを知れて楽しかったです。

第二部の「メール星人と地球人ではどちらがより重い罪だと思うか」のディベートが、九人对十人という人数でも熱い闘い、討論でも熱い闘いがくり広げられていて、良かった。本文の中では使われていない言葉、例えばメール星人が「だましにしている」「相手の星に被害を与えた」、語られていない内容、例えば「繁栄の真の意味を説明していない」等が討論中に出てきたことが印象的で、生徒達の読みの深さを感じることができ、真摯に本に向かい合っていることがわかった。

連合読書会の感想（教員・学校司書）

前半はそれぞれの意見を出し合う形で、個々の意見を深め合うことができていなかったが、後半のディベートで自分の立場を明確にしてからは、互いの意見に対する否定的意見や方向修正を図る意見も出て深まっていった。題材がよかったので、メール星人との今後の付き合い方を考える中で、人と人との交際の仕方や、日本と他国との関係づくりなどへと膨らむ議論に発展させることができていたようです。

生徒たち自身が、自らの力で読み、話し、話し合う。生徒たちにとって貴重な体験となりました。最初は緊張の色が見えたのが、うそのように、「楽しかった」「またやりたい」と友人同士感想を述べ合っていました。メール星とは、自らのスマートフォンなど、顔も姿も考え方も違う、地球の隣人で、まさにこれは、自分たち自身が日々、注意し、心がけなければいけないと、星新一からのメッセージであると結論付けたことが印象に残りました。

連合読書会の感想（教員・学校司書）

勤務先校が同じグループでしたので、じっくり見学させて頂きました。参加生徒の普段の図書室での姿も知っているもので、大変興味深く、生徒たちのやり取りも言葉遣い、言い回し、一つ一つを取っても、面白かったです。「これが本を読む楽しさ」だということが、たくさんの生徒に分かってもらえるよう、これからの司書の仕事に活かしていきたいと思います。

最後に

今回のテキスト『繁栄の花』は1963年に発行された『宇宙のあいさつ』という短編集に収められています。56年前に発表された作品を現在の中学生がどのように感じるのか不安でした。しかし、参加生徒の感想を見ると、このテキストを読み、現在の社会情勢やSNSの問題までを考えていることに驚きました。長く読み続けられる作品と言うのは時代を超えて語りかける力があるものだと思います。「読書」という個人の作業が「連合読書会」での共同作業になることで、自分の意見や考えが変化し、広がる過程を楽しむことができるのが、この「連合読書会の」大きな意味なのではないかと思います。